

CASBEE® 京都-新築

標準システム

■使用評価マニュアル：CASBEE京都-新築（2011年版） | 使用評価ソフト：CASBEE京都-新築2011(v.1.2)

| 1-1 建物概要 | | 1-2 外観 | |
|----------|-----------------------|--------|-------------|
| 建物名称 | 梅小路博物館(仮称)新築他工事 | 階数 | 地上3F |
| 建設地 | 京都府京都市下京区親善寺町3番 | 構造 | S造 |
| 用途地域 | 市街化型美観形成地区・埋蔵文化財 | 平均居住人員 | 1,000 人 |
| 気候区分 | 地域区分IV | 年間使用時間 | 4,000 時間/年 |
| 建物用途 | 集会所 | 評価の段階 | 実施設計段階評価 |
| 竣工年 | 2016年2月 予定 | 評価の実施日 | 2013年12月25日 |
| 敷地面積 | 63,098 m ² | 作成者 | 平井 浩之 |
| 建築面積 | 12,497 m ² | 確認日 | 2013年12月25日 |
| 延床面積 | 18,528 m ² | 確認者 | 平井 浩之 |



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.6 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆ 100%超: ☆

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

0 44 64 87 131 (kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Qのスコア = 3.4

Q1 室内環境 (スコア: 3.4)

Q2 サービス性能 (スコア: 3.3)

Q3 室外環境(敷地内) (スコア: 3.5)

LR 環境負荷低減性

LRのスコア = 3.5

LR1 エネルギー (スコア: 4.1)

LR2 資源・マテリアル (スコア: 3.1)

LR3 敷地外環境 (スコア: 3.1)

| 3 設計上の配慮事項 | | |
|---|--|---|
| 総合 ・京都梅小路公園内に既存の蒸気機関車館と併設して、鉄道博物館を新設。 ・重要文化財のある既存建物への景観的配慮や既存緑地の利用や、公園とのつながりを配慮している。 | その他 0 | |
| Q1 室内環境 ・ホルムアルデヒド以外のVOCについても放散量が少ない建材を全面的に採用している。 | Q2 サービス性能 ・空調換気設備は重要度に応じてシステムを区分し、災害時には重要度が高いシステムを優先的に運転するほか、負荷容量も下げた運転を可能としている。 | Q3 室外環境(敷地内) ・既存の緑地を残し、重要文化財のある既存建物への景観的配慮を行っている。 |
| LR1 エネルギー ・節水型器具の採用 ・LED照明又は高効率蛍光灯照明器具の採用 ・昼光センサーによる調光制御、WC人感センサーによる点滅制御 ・太陽光発電設備の採用 ・室内CO ₂ 濃度による外気取入 | LR2 資源・マテリアル ・雨水の再利用(植栽散水用) ・不活性ガス消火剤の使用 | LR3 敷地外環境 ・温熱環境への配慮 |

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される